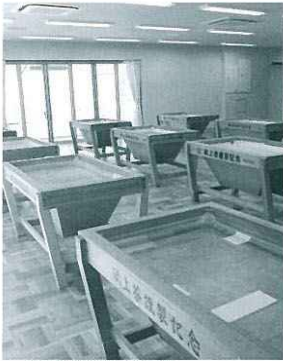


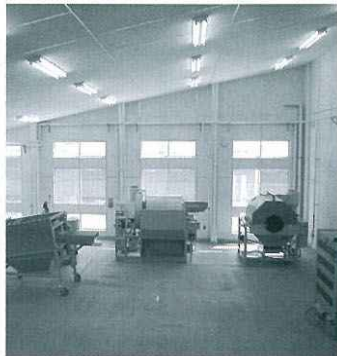
手揉茶研修施設



手揉茶研修施設

手揉みは製茶技法の基本であり、現在県内では8つの流派が技の伝承を行っています。茶の特性を掴み、茶の持つ本来の香味ある良質茶の製造には、五感が重要とされ、五感を得るためには手揉み技法の習得が重要と言われます。この施設で手揉み技法を習得し、良質茶を製造できる製茶師の育成を図ります。手揉茶はホイロ（焙炉）と呼ばれる手揉み製茶の揉乾操作に用いる製茶用器具により、人の手によって製茶されます。交流会や研修会には手揉茶保存会の指導員が指導を行います。交流会、研修会に使用するホイロを12台配置し、最大36人の参加者と12人の指導員で研修を行える施設となっています。

釜炒茶研修施設



釜炒茶研修施設

川根茶の新たな可能性として「釜炒茶」の製造に取り組み、同じ緑茶でありながら製法独特の香味がある釜炒茶の商品化、川根茶の販路拡大を図ります。釜炒茶製造に必要な釜炒機、揉捻機、中揉機、水乾機を各1台ずつ配置しています。交流会や研修会に必要な摘採された茶生葉を保管、計量、調整するためのスペースも設けられています。

会議室

手揉茶・釜炒茶の交流会や研修会の開催に際し、会前後の説明や、会議、研修、意見交換などの場所として設けら

れました。

また、実際に手揉み、釜炒りされた茶の評価会や審査会にも使用されるため、多人数での利用も可能な広さになっています。



会議室

今後の利用について

- この施設は、交流・研修のための施設です。このため、次のような「研修会」などに利用が可能です。
- ① 地域の茶業者を対象とした製茶の研修会など
 - ② 消費者を対象とした手揉み体験会など

施設利用に関するお問い合わせは本庁産業課川根茶係または農林業センターまでお願いします。

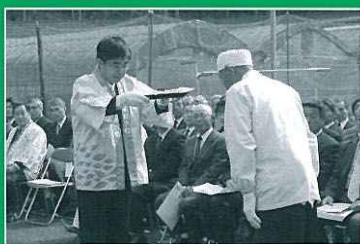
■ 話題 ■

献茶式及び新施設の披露が行われました

4月15日、今年の新茶シーズン到来を前に、川根茶業振興協議会（会長：杉山町長）が主催する「献茶式」が開催されました。会場を新施設に移して行われたこの献茶式には、町内茶業関係者、町議会議員、各区長のみなさんなど約100人が集いました。（新施設の初披露も兼ねて開催されました）式では、先人達が築いた川根茶の功績に感謝するとともに、今年の新茶の好況と地域茶業の発展を祈願する神事が執り行われました。

杉山会長は「この川根地域を支える心のよりどころである川根茶の振興のためには、生産や流通、販売など様々な関係者が同じ意識を持って取り組むことが重要。平成19年度

の茶業が地域づくりにつながるよう、川根茶産地のイメージアップにつながるよう期待している」と述べました。厳粛な雰囲気の中で行われた神事は滞りなく終了し、その後、新施設の初披露が行われました。施設内では、職員による説明を熱心に聞く姿や、手揉み保存会による丹念な手揉み作業を見つめる姿が見られ、新施設に寄せる期待が感じられる初披露となりました。



初揉みした新茶を受け取る杉山川根茶業振興協議会会長

大井川の環境改善に向けた動き

平成20年7月に迎える井川・奥泉発電所の水利権更新について、中部電力(株)に要望書を提出しました



要望書を読み上げる杉山町長

平成20年7月に、井川発電所と奥泉発電所の水利権期間の更新を迎えるにあたり、3月28日、中部電力(株)静岡支店に川根本町としての大井川の河川環境改善を求める要望書を提出しました。

(井川発電所・静岡市葵区、奥泉発電所・川根本町)

要望内容は、2発電所の減水区

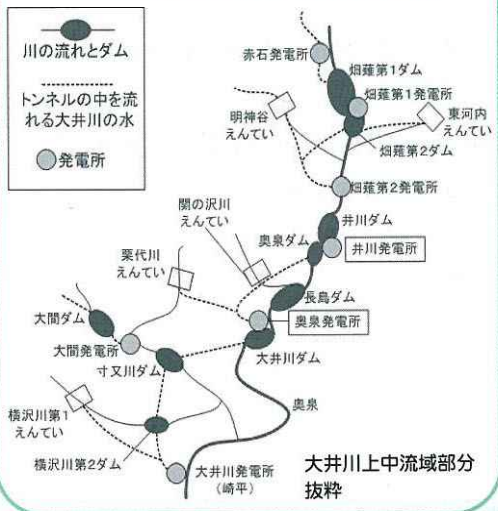
間の流況改善のみならず、大井川全川の流況改善をお願いするものであり、前回の田代川ダムの時に提案した魚類の生息に必要な流量と景観のために必要な流量、河川利用のために必要な流量を各地点での維持流量(大井川ダム直下で毎秒4トン〜9トン *季節によって変動します)として

放流するよう要望し、併せて井川ダム、奥泉ダム、大井川ダムからの濁水についても、早急にその原因と改善策を示していたこと、河川環境との整合性を確認するため、水利権の許可期限を10年間とすることも要望しました。

要望書提出後、杉山町

長は「流域全体で本来の大井川の環境をどう回復するかが重要であり、下流利水者との調整もしていかなければならない。中部電力の考えを聞いた上で、大井川の清流を守る研究協議会(3市3町)の総会で報告し、今後の行動を協議していききたい」と述べました。

大井川に設置されているダム・発電所



本庁企画環境課企画環境係

☎ (56) 2221

大井川上流部の流れ 田代ダム付近にて